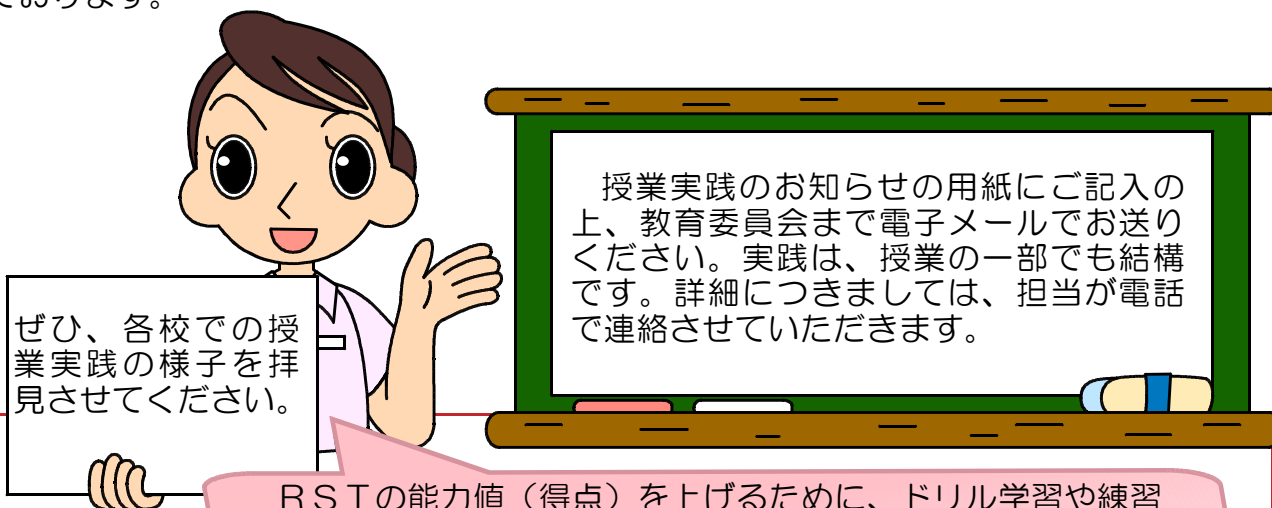


第2学期も、日々の授業実践の積み重ねをお願いいたします。

第1学期は、相馬市公立学校研究指導員会の先生方を中心に、RSTに関わる事業を進めてきました。各校では、大変お忙しい中、RSTの視点を取り入れた多くの授業実践や校内での研修等を進めていただき、ありがとうございました。講師の目黒朋子先生からは、研修会の度に「インプットよりアウトプット（授業実践）が大切です。」と繰り返しご指導いただきました。第2学期も各校でRSTの視点を取り入れた授業実践に取り組んでいただければ幸いです。

第2学期は、各校の授業実践から参考になる部分を共有化していきたいと思います。そこで、校内での研修会をお知らせください。短時間でも結構です。ご連絡をお待ちしております。



授業実践のお知らせの用紙にご記入の上、教育委員会まで電子メールでお送りください。実践は、授業の一部でも結構です。詳細につきましては、担当が電話で連絡させていただきます。

ぜひ、各校での授業実践の様子を拝見させてください。

RSTの能力値（得点）を上げるために、ドリル学習や練習問題をしたり、教師がRSTの問題を作成して児童生徒に行ったりすることは、望ましくありません。
基本は日々の授業の充実です。

- 「すべてのクラスにとって正解な授業」は、存在しません。児童・生徒のRSTの結果に応じたテーラーメイドな授業設計が求められているといえるでしょう。
- キーワードを書けているからわかっているだろう、と流さずに、「文になっているか、なっていないか」は繰り返し指導したい点です。
（「教育のための科学研究所」HPより）
- 導入時の「めあて（課題）」を理解しないで授業を進めることはあり得ません。特に、めあて（課題）に使われている言葉の意味の理解は欠かせません。
- 「同義文判定」「具体例同定（理数）」の伸び悩み（学級内の個人差など）は、教師による「言い換え」による理解の助けなどの処方箋も必要です。
- 教師の板書事項が文として成立しているのかを吟味することが大切です。
（例）「2004年が一番多い。」（資料の読み取りの学習での板書から）
▲2004年は、主語？ ▲2004年は、何が一番多い？
（F-Lab（7月25日実施）より）

各校で取り組んでいる「授業づくりワークシート」を集約して相馬市教育研究実践センターのホームページで公開し、活用していただきたいと計画しています。

ぜひ、各校からの資料提供について、ご協力をお願いいたします。詳しいことは、後日お知らせいたします。